礼拝説教（2019年5月5日）

説教者：中村信哉

宣べ伝える人がいなければ

ローマ人への手紙10章9-15節

はじめに

私たちの教会は、今年から月ごとのテーマを決めています。5月は「伝道」となります。伝道とは、人々に福音を宣べ伝え、人々を救いに導くことです。今日は、教会が、また私たち一人ひとりが伝道することの意味を一緒に考えてみたいと思います。

1. どうしたら救われるのか

今日の聖書箇所の9-10節には、こうあります。**「もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるからです」**。ここには、人がどうしたら救われるのかが書かれています。

伝道は、人を救いに導くことです。伝道について考える上で前提となるのは、人は救われなければならない存在であるということです。

聖書によれば、私たち人間は、天地を造られた主なる神様によって造られました。そして私たちは、神様との交わりに生きる存在として造られました。しかし、最初に造られたアダムとエバが、神様の命令に背いて禁断の木の実を食べた時から、私たちすべての人間は神様との交わりを失いました。その結果、人間性全体にわたって罪の性質を持つようになり、愛が冷え、あらゆる悲しみと苦しみを経験するようになりました。そして日々、思いと言葉と行ないにおいて罪を重ね、神様の怒りと呪い、永遠の地獄の刑罰を受けなければならない存在となりました。これが、私たちすべての人間の生まれながらの状態です。誰でも救われなければ、罪の中に死に、神様の怒りと呪い、永遠の地獄の刑罰を受けなければならないのです。すべての人間は、救われる必要があるのです。

では、どうしたら人は救われるのでしょうか？それは9節によれば、イエス様を主と告白し、神様がイエス様を死者の中からよみがえらせたと信じることです。

神様は、罪の中に死に、神様の怒りと呪い、永遠の地獄の刑罰を受けるべき私たちを、愛してくださいました。その愛のゆえに、神の子であるイエス様をこの世に遣わし、イエス様は私たちのために命を献げ、十字架で死んでくださいました。私たちを罪から救い、神様の怒りと呪い、永遠の地獄の刑罰を、私たちに代わって受けるためです。そして神様は、イエス様を死者の中からよみがえらせ、神の子であることを示されました。

イエス様は、私たちのために十字架で死に復活されたことにより、私たちに救いの道を開いてくださいました。もし私たちがイエス様こそ神であり、私たちを救うために十字架で死なれ、私たちと人生を共に歩んでくださるために死からよみがえられたと信じ、口で告白するなら、誰でも救われるのです。救いの道は、すべてイエス様が用意してくださいました。あとは、それを受け入れるだけです。「イエス様を信じ、委ねます」と告白するだけです。しかし受け入れなければ、誰も救われません。イエス様を信じ告白しなければ、罪の中に死に、神様の怒りと呪い、永遠の地獄の刑罰を受ける他ないのです。これは、聖書が語る厳粛な事実です。私たちには二つの道しかないのです。イエス様を信じるか信じないか、救われるか救われないかの二つの道です。

2. 宣べ伝える人がいなければ

救いの道は一つしかありません。それは福音を聞いて、イエス様を信じ告白することです。しかし14節にはこうあります。**「信じたことのない方を、どのようにして呼び求めるのでしょうか。聞いたことのない方を、どのようにして信じるのでしょうか。宣べ伝える人がいなければ、どのようにして聞くのでしょうか」**。

人が救われるためには、聖書が語る福音を聞く必要があります。神様がおられること、自分が罪人であり、イエス様を信じなければ、罪の中に死に、神様の怒りと呪い、永遠の地獄の刑罰を受けなければならないこと、イエス様は私たちのために十字架で死に、私たちと共におられるためによみがえられたこと、イエス様こそ神であり、私たちの救い主であることを受け入れ、信じ告白するなら誰でも救われること、この福音を聞く必要があります。聞かなければ、信じるか信じないかを選ぶこともできません。信じるためには、まず福音を聞く必要があります。

そして福音を聞くためには、福音を伝える人がいなければなりません。すでに福音を知っている人が、福音を伝えなければ、誰も福音を聞くことができません。すでに福音を知っている人が、福音を伝えなければ、誰もイエス様を信じることができません。そして誰も救われません。私たちが福音を伝えなければ、人々は福音を聞くことも、信じるか信じないかを選ぶこともできないのです。

私は高校三年生の時に、伝道者になる決心をしました。進路の導きを求めていた頃、クリスチャンのキャンプに参加しました。そこで大きな世界地図を見せられ、それにはどの地域にどれくらいのクリスチャンがいるのかが分かるクリスチャン人口の分布図でした。その地図を見ると、クリスチャンがほとんどいない地域、福音が届いていない地域が、世界には沢山あることが分かりました。その時私は、世界には福音を一度も聞いたことがない人が沢山いることを知りました。そしてメッセージの中で、神様は福音を伝える働き人を求めておられるというチャレンジを受けました。

そして旧約聖書のエレミヤ書の言葉、**「まだ若い、と言うな。わたしがあなたを遣わすすべての**

ところへ行き、わたしがあなたに命じるすべてのことを語れ」(エレミヤ 1:7)という言葉が心に響いて、神様からの召命を確信して伝道者としての道を歩み始めたのです。それから今年で 25 年が経ちました。この 25 年間、色々なことがありました。精神的な病に襲われたこともありました。結婚をし、子どもが生まれ、牧師にもなりました。大きな試練、小さな試練を経験してきました。その中で最近改めて思わされたことは、私が神様から与えられた人生の使命は、まだ一度も福音を聞いたことのない人に福音を伝えることだということです。このために人生を献げ、このために人生を使い尽くすということです。

この教会の徒歩 20 分以内（1.2km）には、5 万人もの人が住んでいます。そのほとんどの人は、福音を一度も聞いたことがないでしょう。私たちの教会がなぜこの地域に立てられたのか、それはこの 5 万人の人に福音を伝えるためではないでしょうか。その人たちが福音を信じるか信じないかは分かりません。しかし信じるか信じないかを選ぶ機会を提供しなければなりません。それは、私たちの役割です。私たちが伝えなければ、その人たちは福音を聞くこともなく生涯を閉じるかもしれません。

私たちは、イエス様がパウロに語った言葉を心に留めたいと思うのです。**「恐れないで、語り続けなさい。黙ってはいけない。わたしがあなたをともにいるので、あなたを襲って危害を加える者はいない。この町には、わたしの民がたくさんいるのだから」(使徒 18:9-10)**。私たちの地域にも、この 5 万人の中に救われるべき人が沢山いること、神様が選ばれた人が沢山いることを信じて、伝道に励みたいと思うのです。

3. 私たちの伝道

私たちの伝道には、「教会としての伝道」と「個人としての伝道」があるように思います。「教会としての伝道」は、教会周辺の地域への伝道で、教会の伝道計画に従って伝道していきます。「個人としての伝道」は、自分の家族、学校、職場、友人への伝道です。

私たちはもちろん、伝道するために家族を形成し、伝道するために学校に行くわけではありません。伝道するために仕事をし、伝道するために友人を作るわけではありません。私たち人間は、神様が造られた世界を治める使命を与えられています。そのために私たちは家庭を築き、学校に行き、仕事をし、友人との人間関係を楽しみ、あらゆる文化を形成します。

もし私たちが伝道するために家族を形成し、伝道するために学校に行き、伝道するために仕事をし、伝道するために友人を作るなら、その伝道は逆効果になるでしょう。その伝道には誠実さがないからです。

私たちは、伝道するために家庭を築き、学校に行き、仕事をし、友人を作るわけではありません。神様が造られた世界を神様に代わって治め、神様に感謝してそれを楽しみ喜ぶために、家庭を築き、学校に行き、仕事をし、友人を作るのです。

私たちは伝道のためだけに家庭を築くわけでも、学校に行くわけでも、仕事をするわけでも、友人を作るわけでもありません。しかし伝道もするために、家庭を築き、学校に行き、

仕事をし、友人を作るのです。

伝道は、家庭や学校や仕事や友人関係の第一の目的ではありません。第一の目的となれば、むしろそれは逆効果になり、つまずきともなります。では、私たちは家庭や学校や職場や友人関係の中で、どのように伝道したらよいのでしょうか？

それは、第一に「祈ること」です。自分が置かれている場所にいる人々の祝福と救いのために祈ることです。

第二に、「誠実に生きること」です。誠実に生きていれば、必ず人から信頼されます。信頼されれば、いざという時に頼りにされ、相談されます。その時に愛をもって接するのです。

伝道は「口」で福音を語るだけではありません。「耳」を使って人の話を熱心に聞くことも伝道です。「目」を使って人を優しい眼差しで包むことも伝道です。「心」を使って人のありのままを受け入れることも伝道です。現代は、宗教に対して警戒心の強い時代です。しかし信頼できる人、誠実な人の話には、人々は耳を傾けるものです。人々は、一方的な伝道に嫌悪感を示します。誠実さのない伝道に人々は嫌悪感を持つのです。

第三に、「正直に生きること」です。嘘をつかず、隠さず、自分を大きく見せようともせず、自分の弱さを見せることです。間違ったことをしたら、自分の誤りを素直に認め、正直に謝ることです。そのような二面性のない、裏表のない姿に、人は信頼するでしょう。

私たちは、よく祈り、とにかく誠実に正直に人と接することです。そのような毎日の積み重ねが信頼を勝ち取り、福音を証しをする機会を整えてくれるのです。私たちは、誠実さのない伝道をしてはなりません。それは逆効果であり、人々をつまずかせ、人々を福音から遠ざけます。

イエス様は言われました。**「あなたがたは地の塩です。・・・あなたがたは世の光です。・・・あなたがたの光を人々の前で輝かせなさい。人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようになるためです」(マタイ 5:13-16)。**

おわりに

私たちは誰でも、救われなければならない存在です。イエス様は私たちのために救いの道を用意してくださいました。人はイエス様を信じ告白しなければ救われません。イエス様を信じるためには、福音を聞かなければなりません。福音を聞くためには、福音を伝えなければなりません。私たちの教会には、この地域の 5 万人の人々に福音を伝える役割があります。福音を一度も聞いたことのない人々に、福音を伝えなければなりません。神様はこの地域に、救われるべき人々を沢山起こしてくださると信じて伝道に励みたいと思います。

また私たち一人ひとりは、置かれた場所で、人々の救いを祈りつつ、誠実に正直に生きて、地の塩・世の光として歩んでいきたいと思います。イエス様は、必ず福音を証する機会を与えてくださるはずです。